



松代教会の教会員の方々

まったくけれど、信仰の種まきをしていつてくれたのです。感謝です。

竹内豊子…もともと幼いときこの幼稚園に通っていたので、イエス様のお話は聞いていました。でもぜんぜん覚えていませんでした。幼稚園に勤めることになっ

た当時は、当然洗礼は受けるべきではないかと思つて、受けました。その後、結婚し、生活拠点も変わり、長く幼稚園のことも教会のことも忘れていました。その後、教会の礼拝の奏楽、オルガンを頼まれたことが、再び私を教会に結び付けることになりました。ピアノが好

きで弾いてきて、趣味が活かされて、そのおかげで教会につながることができました。

信仰には不真面目でしたが、教会につながっていられたことに感謝しています。

竹内勝昭…私の受洗にはなんとなく不純なものが混ざっていました。すべては神様がその人の生活を通して導いてくださったもの。何か不思議な出来事に導いてくださったとい

る、と思います。受洗の自覚も薄いのです。本当にイエス様に出会った時つて、自覚の薄かった自分が大変苦しんだ時、だと思ひます。名古屋で大学生だった時、慢性腎臓炎という病気になりました。入院していると、同じ病気の隣の人が亡くなつてしまひ、急にひどく怖くなりました。ノイローゼみたいになりました。受洗したとき、この松代教会から聖書をもらいました。そこには、皆さんの寄せ書きがありました。

その聖書をめくったところに、牝鶏の話があり、その時が本当の出会いだったと思ひます。牝鶏が雛を包み込むように守る、でも「お前はどこかに行つてしまふ」と。

非常に苦しい時でした。聖書の言葉に、気持ちの中にばーん入つてくるものがありました。瞬時にノイローゼから救われ、これが神様のなせる業だ、と思ひました。死ぬかと心配していたものが、瞬間に直つたのです。聖書の言葉一つで、瞬時に死ぬ苦しみのノイ

ローゼが直つたのです。本当の出会いだったと思ひます。「生きる、死ぬ、は自分が考えることじゃない。」イエス様の言葉に出会えました。苦しみの後にはいつも救いがあります。イエス様も大変な苦しみを受け、三日後に甦りました。相似形です。日常の中にも、苦しみと救いがあります。何もしないと、意識しなくなつてしまいます。常に、今の生活の中で起きていることです。

長谷川浩一…私は「主イエス」とか「イエス・キリスト」と言つています。私は主イエスに対しよそよそしく、出会ったという感覚はありません。神様として素晴らしい働きをしており、そこは信じています。でも人としてそこにいたら、どうかなあ。語り合ったこともないし。モーセの召命の場面で、「お前がやれ」って言われている場面、まるで自分に言われているようで、励まされます。自分とモーセが重なり、その神様との出会い方。子どもたちに話すときも、それを思ひます。

「私とイエスさまの出会い」

イエス・キリストを信じる信仰は、人それぞれです。教会では信じることを、出会うという表現でも語ったりしますが、この「おとずれ」の企画として、教会員それぞれに主イエスとの「出会い」を語っていただきました。紙面の関係でトークの半分ほどしか掲載できませんが、信仰者それぞれの生の声をお聞きください。トークの全文は教会にありますのでお読みになりたい方は、小林牧師までお声がけください。



就職してまた教会と離れていましたが、三十歳で松代に戻り、犬養道子さんの「聖書物語」など本をきつかけに、また教会に通ひだし、その年のクリスマスに受洗しました。

島秀子…まず思い出すのは二つの物語です。「賢者の贈り物」と「靴屋のマルチン」です。

古澤望…私自身は、両親がクリスチャンです。幼いころ、今の幼稚園ホールの位置にあった昔の礼拝堂の長椅子に立つて礼拝を見ていた記憶があります。父の転勤で県内を佐久や木曽へとあちこち動いていたので、長く教会から離れていました。でも大学2年で、神奈川県相模原の下宿先近くの翠ヶ丘教会に通ひました。やんちゃで元気な牧師のもとに若い人がたくさん集い、活気のある教会でした。教会学校の3年生の担任をし、水曜日の夜は聖書研究会に通ひました。「出エジプト記」の解き明かしを何か月もかけて聞いていたのはいい経験でした。

就職してまた教会と離れていましたが、三十歳で松代に戻り、犬養道子さんの「聖書物語」など本をきつかけに、また教会に通ひだし、その年のクリスマスに受洗しました。

中島正久 8年ほど前になりますが、ある牧師の「クリスマス」の文章を目にしました。「変化する世界の中で、変わらないものは神様の愛と、それに反逆し神のようになるうとす

「靴屋のマルチン」は、マルチンが聖書を読んでいたら、神様が明日行くよと言うので、いつ来るかと待つていたが、結局来なかった。道路で雪かきをしていたおじさんや、赤ちゃんをだつこしたお母さんを家へ入れてご馳走をしたが、結局イエス様は来なかった。ところが、それは実はイエス様が姿を変えて来ていたんだよ、という物語です。

若いころ、専門学校を受

けるとき、クリスチャンになつていた方が合格率が高いと言われて洗礼を受けたんです。マルチンを読んでいて、ああ、こういう形でイエス様は現れてくださるのかなあ、と思ひました。不純な動機でしたが、こうしてイエス様が信仰に導いてくださったのかなあと思つています。

中島美恵子…教会が夫を受け入れてくださりよかったです。年を取り、車が1台になつても、バス利用になつても、毎週一緒に教会に来てくれて今があります。「聖霊は人を通して働かれる。」これ（上記のエピソード）を得た後は、夫の讃美歌の声が大きくなり、よく聞こえるようになりました。

これが胸にジーンときて、次の年のイースターで洗礼を受けました。熱心な信者ではないが、今私が好きなのは、「朝の祈り」と「夕べの祈り」です。暗唱して、毎日朝夕欠かさず祈つています。朝は夫婦で祈り、夕べの祈りはお風呂の中で祈つています。

人間の姿。人類の歴史は憎しみ、争いの絶えない罪の歴史。神の愛は、御子イエス・キリストの誕生で示されました。あなたは許され受け入れられている。イエス様の十字架と復活に示されている。それは私たちの罪のためだった。イエス様を受け入れるとき、神様の者とされる。」

中先生の前宮崎先生の時代で、わざわざ伝道委員長の先生をお呼びしての洗礼となりました。この時は竹内さんも一緒でした。

下の妹は今も中野教会の教会員として元気に過ごしています。

私もおかげで洗礼を受けて、感謝しています。私にすすめた妹は亡くなつてし

次の方の懇談会の中で「洗礼を受けた」と言っているのを聞いて、びっくりしました。

倉澤祐子…私は3人姉妹で育ちました。真ん中の妹が、一昨年亡くなったのですが、これが幼稚園の教師をしていまして、洗礼も受けていました。この子が姉である私ともう一人の妹に、「洗礼を受けなさい。時があるのだから、逃さずに。」とそれは熱心にすすめてくれたので、二人そろつて洗礼を受けました。教会学校や青年会で育てられたと思つています。妹は「これが出発な

次の方の懇談会の中で「洗礼を受けた」と言っているのを聞いて、びっくりしました。

倉澤祐子…私は3人姉妹で育ちました。真ん中の妹が、一昨年亡くなったのですが、これが幼稚園の教師をしていまして、洗礼も受けていました。この子が姉である私ともう一人の妹に、「洗礼を受けなさい。時があるのだから、逃さずに。」とそれは熱心にすすめてくれたので、二人そろつて洗礼を受けました。教会学校や青年会で育てられたと思つています。妹は「これが出発な

松代教会のクリスマス

12月21日（日）午前10時15分～

毎週の礼拝説教は松代教会のHPからご視聴いただけます。

松代幼稚園のクリスマス

12月12日（金）に行いました。